

現代文化分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH373	論文演習IA	2	1.5	1					主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 2023年度開講せず。 主専攻必修科目
02DH374	論文演習IB	2	1.5	1					主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程1年次対象 2023年度開講せず。 主専攻必修科目
02DH375	論文演習IIA	2	1.5	2・3					主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 2023年度開講せず。 主専攻必修科目
02DH376	論文演習IIB	2	1.5	2・3					主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程2年次対象 2023年度開講せず。 主専攻必修科目
02DH377	論文演習IIIA	2	1.5	1-3	春ABC	応談		江藤 光紀	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目
02DH378	論文演習IIIB	2	1.5	1-3	秋ABC	応談		江藤 光紀	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目
02DHA11	博士論文執筆演習 I	2	1.0	1-3					この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的としたものである。受講生には自らの研究の目的や方法、論文の章立て、論文の完成・提出までのスケジュールを文章にまとめて発表する。演習Iでは研究目的の明確化とそれにふさわしい方法論の確立を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	西暦偶数年度開講。 OBBAJB1と同一。 オンライン(同時双方向型)
02DHA13	博士論文執筆演習 II	2	1.0	1-3	秋AB	応談		対馬 美千子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、博士論文をはじめ専門的な学術論文を完成させるために必要な明確な目的意識の涵養と研究計画書の執筆等に関するスキルの修得を目的とする。演習IIでは、一次資料の収集・分析、先行研究への批判的分析を主題として、プレゼンテーションの演習をする。	西暦奇数年度開講。 OBBAJB2と同一。 対面(オンライン併用型)
02DHA21	国際研究・教育実践演習 I	2	2.0	1-3	春AB	応談		馬籠 清子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、海外において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。履修条件として、本学の協定校以外の海外の大学に留学し帰国した学生、また海外の研究機関などにおける研修を受けて帰国した学生であることが求められている。また履修登録は留学あるいは研修が終了し、帰国してから原則として1年以内に行う。この授業では研修に関する口頭発表を行い、研究・研修報告書の作成が求められる。	OBBAJC1と同一。 オンライン(対面併用型)
02DHA23	国際研究・教育実践演習 II	2	2.0	1-3	秋AB	応談		竹谷 悦子	この授業は現代文化学サブプログラムの学生を対象に、協定校であるカナダのプリンス・エドワード島大学(UPEI)において修得した自らの研究成果や研修経験を発表することを通して、修得した学術的な知見やスキルを他者に伝える技術を磨くことを目的としている。UPEIの夏期短期研修「英語で授業ができる教員養成のための海外研修プログラム」を受講し、この科目を履修登録した学生は、帰国報告会での英語による口頭発表を実施する。	OBBAJC2と同一。 対面

言語情報分野

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
02DH481	論文演習IIIA	2	1.5	3	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象 主専攻必修科目。オンライン(同時双方向型)
02DH482	論文演習IIIB	2	1.5	3	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代	主指導の教員による博士論文作成のための指導。	主として博士後期課程3年次対象。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド)、リアルタイム配信)に変更することもある。 主専攻必修科目。対面

02DH691	英語教育学プロジェクト特別演習-21A	2	1.0	1 - 3					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦偶数年度開講。OBBALB1と同一。対面
02DH692	英語教育学プロジェクト特別演習-21B	2	1.0	1 - 3					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦偶数年度開講。OBBALB2と同一。対面
02DH693	英語教育学プロジェクト特別演習-211A	2	1.0	1 - 3	春ABC	応談		卯城 祐司, 平井明代, 土方 裕子, 末森 咲, 柳沢 明文	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。OBBALB3と同一。対面
02DH694	英語教育学プロジェクト特別演習-211B	2	1.0	1 - 3	秋ABC	応談		卯城 祐司, 平井明代, 土方 裕子, 末森 咲, 柳沢 明文	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が独創的な研究プロジェクトを遂行し、その成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。OBBALB4と同一。対面